

## 中国法意識スケーリング (2・完)

法意識国際比較研究会

(代表：加藤 雅信・マイケル.K.ヤング)

### 目 次

1. 概 要
2. スケーリングの方法
  - (1) 因子分析モデル
  - (2) 因子分析の解
  - (3) 因子得点の推定
  - (4) スケール得点と因子得点
  - (5) スケールの信頼性
3. スケールの作成
  - (1) 「生活満足度スケール」および「政治関心度スケール」
  - (2) 一般的な力に対する態度スケール群
  - (3) 法の存在の意義に関するスケール群
  - (4) 法に対する親近性に関するスケール群
  - (5) 「国家機関に対する信頼度スケール」
  - (6) 「法的紛争解決行動に対する評価スケール」
4. 各スケールの特徴
  - (1) 生活満足度スケール
  - (2) 政治関心度スケール
  - (3) 精神面での力に対する態度スケール
  - (4) 強者像についての態度スケール
  - (5) 法の主観的不可欠性の評価スケール

(2) 中国法意識スケーリング (2・完)

- (6) 法の遵守の根拠スケール
- (7) 法なき社会イメージ スケール
- (8) 法に対する好感度スケール
- (9) 遵法度スケール
- (10) 国家機関に対する信頼度スケール
- (11) 法的紛争解決行動に対する評価スケール
- (12) スケール間の相関 (以上、183号)

5. 各スケールの属性別の分析

- (1) 生活満足度スケール
- (2) 政治関心度スケール
- (3) 精神面での力に対する態度スケール
- (4) 強者像についての態度スケール
- (5) 法の主観的不可欠性の評価スケール
- (6) 法遵守の根拠スケール
- (7) 法なき社会イメージスケール
- (8) 法に対する好感度スケール
- (9) 遵法度スケール
- (10) 国家機関に対する信頼度スケール
- (11) 法的紛争解決行動に対する評価スケール (以上、本号)

5. 各スケールの属性別の分析

ここでは11のスケール毎に、「性別」「年齢」「職業」「教育程度」「民族」「党派」「所得」「地域別に標準化した所得」「家庭の経済状況」「居住地」の全部で10の属性別に特徴を検討する。具体的には、

- ① 「性別」については、男女別に回答者のスケール得点の平均値および信頼区間を求めて、性別により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ② 「年齢」については、24歳まで、25歳から5歳きざみで64歳まで、65歳以上の全部で10段階に分け、各年齢段階毎に回答者のスケール得点の平均値および信頼区間を求めて、年齢により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ③ 「職業」について調査質問紙では、「農林牧漁業」、「工場労働者等」、「商業・サービス業」、「自営業」、「法律専門家」、「学生」そして「党・政府幹部」など全部で15のカテゴリで尋ねている。そして、各職業カテゴリ毎に回答者のスケール得点の平均値および平均値の信頼区間を求めて、職業により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ④ 「教育程度」については、「字が読めない」、「小学校」、「初級中学」、「高級中学・専門学校」、「大学」、「その他」に分けて尋ねているが、「その他」を除く5段階について、各段階毎に回答者のスケール得点の平均値および平均値の信頼区間を求めて、教育程度により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ⑤ 「民族」については、「漢族」、「回族」、「白族」、「タイ族」、「壮族」、「チベット族」、「満族」、「朝鮮族」、「その他」に分けて尋ねているが、標本数の極端に少ないものは「その他」に分類しなおして、「漢族」、「回族」、「白族」、「タイ族」、「壮族」、「満族」、「朝鮮族」、「その他」の8分類毎に回答者のスケール得点の平均値および平均値の信頼区間を求めて、民族により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ⑥ 「党派」については、「一般市民」、「共産黨員」、「共青団員」、「民主党派」、「その他」のカテゴリ毎に、回答者のスケール得点の平均値および平均値の信頼区間を求めて、党派により法意識にどのような違い

#### (4) 中国法意識スケーリング (2・完)

が見られるかを検討する。

- ⑦「所得」については、「200元以下」、「200-300元」、「300-400元」、「400-500元」、「500-800元」、「800-1000元」、「1000-1500元」、そして「1500元以上」まで8段階で尋ねている。これらの各段階毎に回答者のスケール得点の平均値および平均値の信頼区間を求めて、所得層により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ⑧「地域別に標準化した所得」については、現代中国では地域間で所得に大きな格差のあることに配慮して、地域毎に所得を標準化して表わし、当該地域の中での相対的な所得の高低を明示し、さらにその結果を5段階にまとめ、各段階毎に回答者のスケール得点の平均値および信頼区間を求めて、地域別に標準化した所得により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ⑨「家庭の経済状況」については、「上」、「中の上」、「中」、「中の下」、「下」の各段階毎に、回答者のスケール得点の平均値および平均値の信頼区間を求めて、家庭の経済状況により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- ⑩「居住地」については、「都市」と「農村」という居住地別に回答者のスケール得点の平均値および信頼区間を求めて、居住地により法意識にどのような違いが見られるかを検討する。
- なお、各スケール別には、統計数値と図は全ての属性について掲載したが、内容の記述は特徴のある属性のみに限定し、そうでない属性については特には取り上げてはいない。

#### (1) 生活満足度スケール

「生活満足度」の属性別の結果は、附表および図12に示す通りである。

「年齢別」に見ると、基本的には年齢の増加にともなって平均値が上

がっている(7.45, 7.34, 7.56, 7.65, 7.64, 7.74, 7.77, 7.78, 7.81)が、「65歳以上」(7.47)では「24歳以下」(7.45)とほぼ同じ値を示している。すなわち、年齢の増加とともに「生活満足度」が若干上がるが、65歳以上の年齢の人々にとっては必ずしもそうは感じられないことが示されている。

「職業別」では、「工場労働者等」(7.13)と「商業・サービス従業」(7.28)、「党・政府幹部」(7.91)、そして「自営業」(7.76)と「農林牧漁業」(7.91)の3グループに分かれ、順に平均値が高くなっている。すなわち、現在の生活に対する満足度が高くなっている。何れのグループも平均値がスケールの中点6.0よりも大きい、「自営業」と「農林牧漁業」のグループでは平均値が8.0に近く、満足度が高い。「党・政府幹部」よりも満足度が高い点は注目に値する。

「所得」については、少ない方から順に平均値が7.63, 7.55, 7.33, 7.44, 7.61, 7.64, 7.94, 8.17, 7.58であり、所得の多少とは関係なく生活満足度に変わりがない。地域別に標準化した場合についても、少ない方から順に平均値が7.18, 7.51, 7.59, 7.75, 7.86, 7.58と高所得になる程生活満足度が若干上がる傾向が見られるが、その程度は極めて緩やかである。このことをあわせて考えると、むしろ自分の暮らしぶりをどう評価するかが、生活満足度に反映しているとも考えられる。さらに、「家庭の経済状況」が上がるにつれて平均値が大きくなり、生活満足度が高くなる傾向が見られる。そして、平均値が6.35, 6.97, 7.84, 8.27, 8.60、と直線的に上がっている。

また、「地域別」に見ると、「都市」(7.41)の方が「農村」(7.87)よりも明らかに生活満足度が低くなっている。ただし、いずれの場合も平均値が7.0を超えており、生活満足度は高いと言える。

(6) 中国法意識スケーリング (2・完)

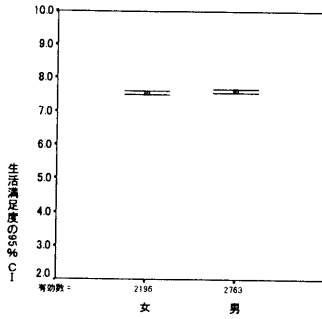


図12-1 性別に見た生活満足度

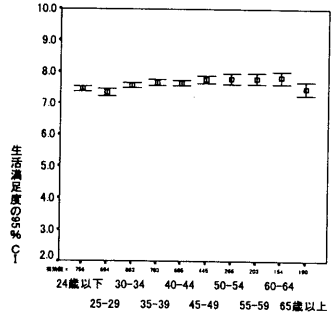


図12-2 年齢別の生活満足度

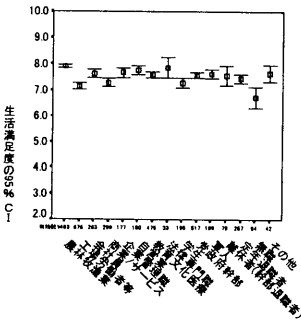


図12-3 職業別の生活満足度

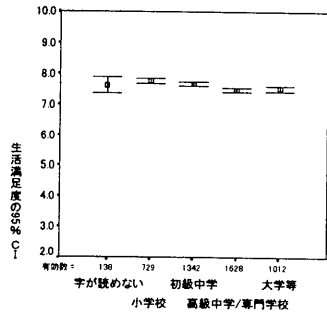


図12-4 教育程度別の生活満足度

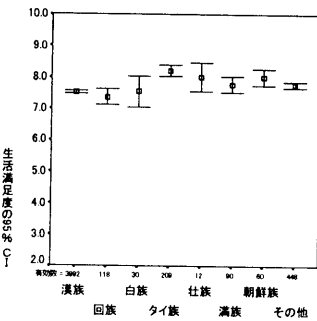


図12-5 民族別の生活満足度

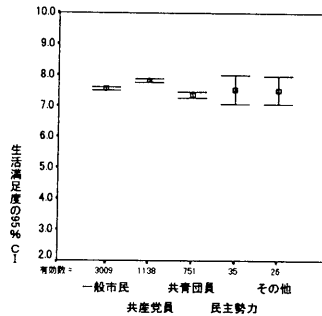


図12-6 党派別の生活満足度

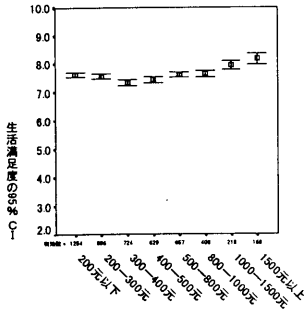


図12-7 所得段階別の生活満足度

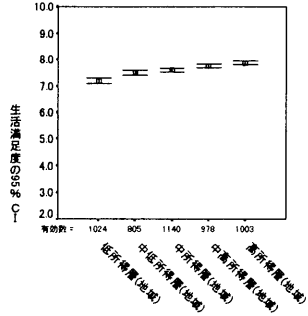


図12-8 地域別に標準化した所得段階別の生活満足度

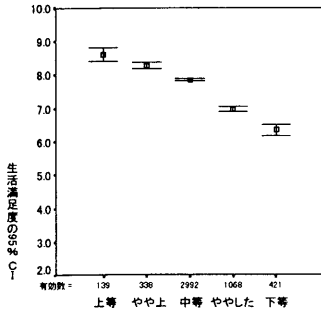


図12-9 家庭の経済状況別の生活満足度

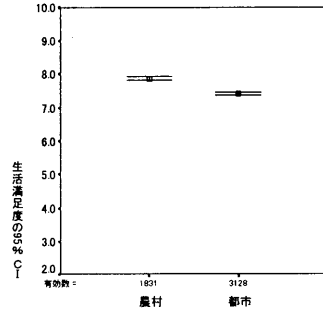


図12-10 居住地別の生活満足度

(8) 中国法意識スケーリング (2・完)

(2) 政治関心度スケール

「政治関心度」の属性別の結果は、附表および図13に示す通りである。

「性別」に見ると、得点の平均値は男性が11.01、女性が9.95と女性の方が低い値を示す。しかも95%信頼区間は相互に重ならない。95%信頼区間というのは、この場合、標本平均の標本変動を表わす標準誤差(標本抽出を無限回繰り返した時に得られる標本平均の分布の標準偏差)の1.96倍の値を標本平均の上下に加えた区間のことを云い、標本抽出を繰り返した時におよそ100回のうち95回はこの区間の中に母平均が含まれることになる。今回の結果に即して云うと、「データから計算された男性の信頼区間の中に男性の母平均が含まれている」という命題が正しい確率が0.95であるということになる。図13では、男性と女性の信頼区間は重なりがなく、標本の抽出を繰り返してこの調査を実施したとしてもほとんど常に男性の方が女性よりも高い平均値を示すということである。すなわち、男性の方が女性よりも平均的に政治に対する関心が高いことが示されている。

「職業別」では、「法律専門職」(12.61)が最も高く、それに「党・政府幹部」(12.20)、「軍人」(11.96)、「革命事業の幹部定年退職者(離休人員)」(11.82)、「企業管理職」(11.79)が続いている。これは当然の結果と言える。

「教育程度」では、図13に示すように教育程度があがるにつれて平均値が直線的に上昇し(「字が読めない」から「大学」にかけて順に8.23, 9.42, 10.14, 10.69, 11.80)、政治への関心も高くなっている。「字が読めない」(8.23)を除いて全て平均値が尺度の中間点(9.0)よりも高い値を示して示しており、4851名の有効回答者のうちの大部分の者が政治に関して日常的な関心を何らかの形で持っているということである。

「党派別」では、高い方から、「共産黨員」(12.58)、「民主党派」(12.11)、



「共青团員」(10.87)、「一般市民」(9.67)の順になっている。標準偏差が「一般市民」で2.95と最も大きい値を示すが、これは、「共産党員」と「一般市民」との平均値の差の2.91とほぼ同じ値に相当する。「共産党員」と「民主党派」とで「一般市民」に比べて政治関心度が明らかに高いことが示されている。

「所得」については、「200元以下」から「400-500元」まで順に、10.27, 10.59, 10.85, 10.87とわずかではあるが上昇傾向にあるが、「500-800元」で10.58、「800-1000元」で9.85と減少する。そして「1000-1500元」で10.91、「1500元以上」で10.83と再びもとの傾向にもどる。特に「800-1000元」の落ち込みが特徴的である。

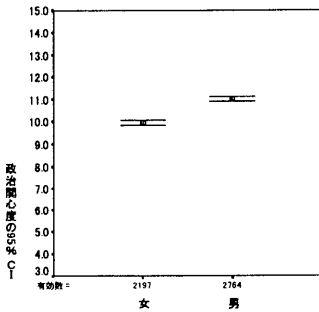


図13-1 性別に見た政治関心度

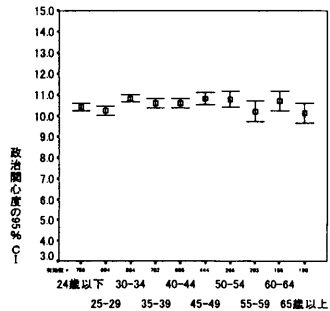


図13-2 年齢別の政治関心度

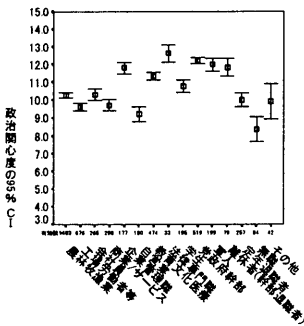


図13-3 職業別の政治関心度

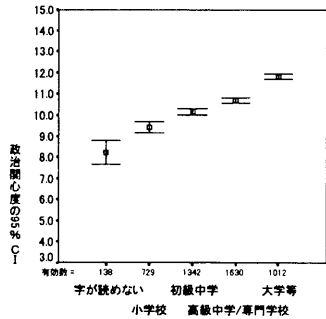


図13-4 教育程度別の政治関心度

〈10〉 中国法意識スケーリング (2・完)

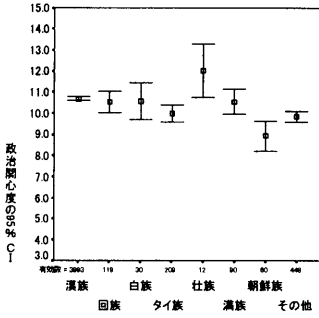


図13-5 民族別の政治関心度

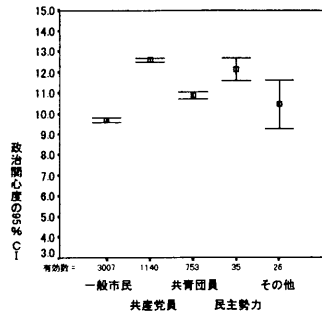


図13-6 党派別の政治関心度

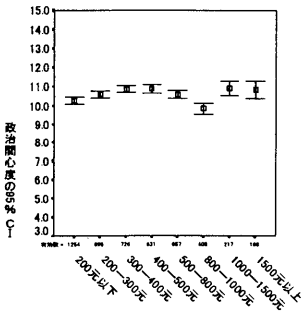


図13-7 所得階級別の政治関心度

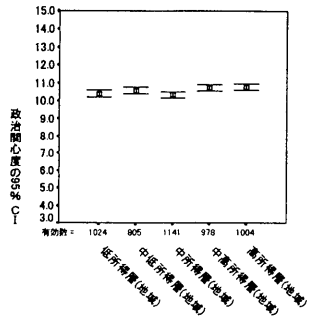


図13-8 地域別に標準化した所得階級の政治関心度

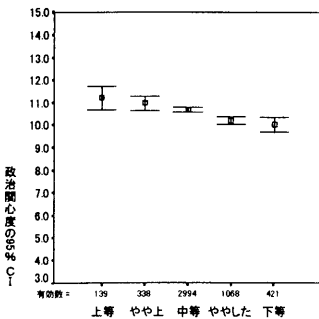


図13-9 家庭の経済状況別の政治関心度

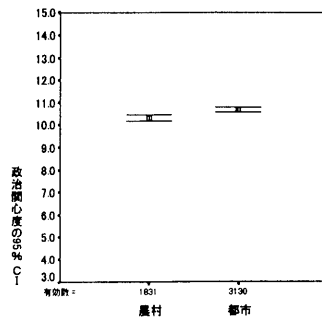


図13-10 居住地別の政治関心度

(3) 精神面での力に関する態度スケール

「精神面での力に関する態度」の属性別の結果は、附表および図14に示す通りである。

「教育程度」では、図14に示すように、「字が読めない」(12.27)から「小学校」(12.59)、そして「初級中学」(13.01)の順に平均値が高くなり、その後、「高級中学・専門学校」(12.71)、「大学」(12.65)の順に平均値が下降している。すなわち、「初級中学」で「精神面での力」に対する志向性が最も強く、教育程度がそれより低い場合についても高い場合についても「精神面での力」に対する指向性が相対的に弱まる。この尺度に含まれる3項目の全てに「同意する」と回答した場合にスケール得点が12.0になることと合わせて見ると、全体として見た場合に、「精神的な力」に対する志向性はかなり強いと言える。

「所得」については、「200元以下」(12.92)から「800-1000元」(12.36)にかけて緩やかな下降傾向がみられるが、「1000-1500元」(12.73)と「1500元以上」(12.64)とで小さな段差をもって平均値が上がっている。

「党派」については、「一般市民」(12.67)、「共産党員」(12.96)、「共青团員」(12.78)、そして、「民主党派」(12.60)の間で特に差異は見られない。

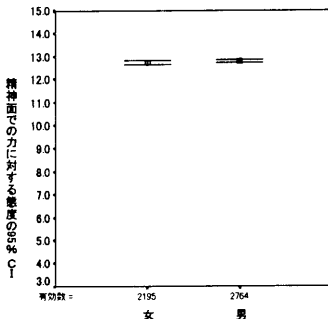


図14-1 性別に見た精神面での力に関する態度

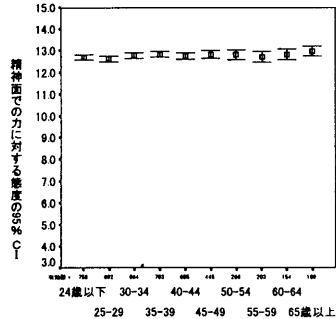


図14-2 年齢別の精神面での力に関する態度

〈12〉 中国法意識スケーリング (2・完)

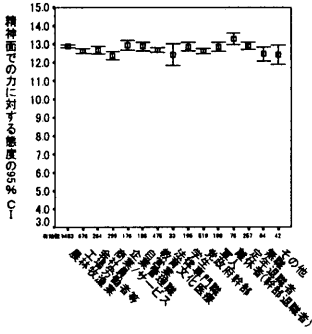


図14-3 職業別の精神面での力に関する態度

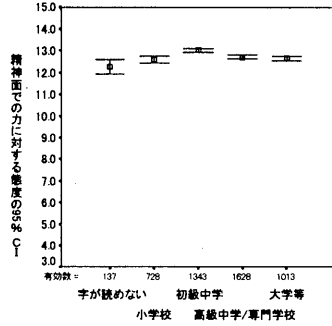


図14-4 教育程度別の精神面での力に関する態度

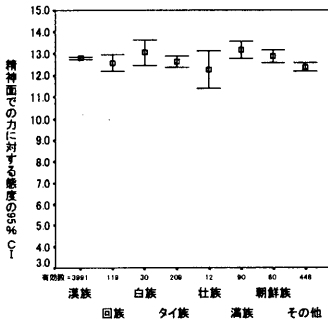


図14-5 民族別の精神面での力に関する態度

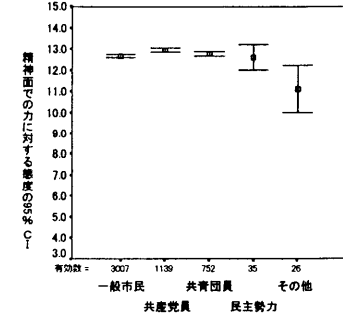


図14-6 党派別の精神面での力に関する態度

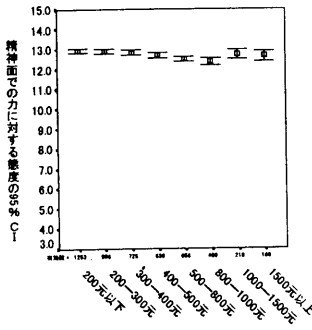


図14-7 所得段階別の精神面での力に関する態度

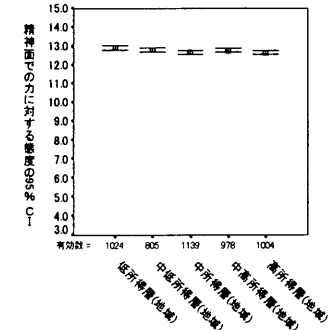


図14-8 地域別の精神面での力に関する態度

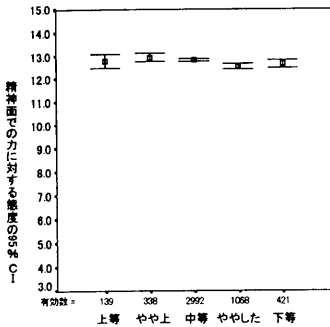


図14-9 家庭の経済状況別の精神面での力に関する態度

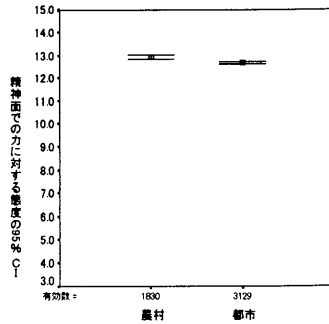


図14-10 居住地別の精神面での力に関する態度

#### (4) 強者像についての態度スケール

「強者像についての態度」の属性別の結果は、附表および図15に示す通りである。

「職業別」に見ると、「法律専門職」(4.64)で平均値が際立って低くなっており、信頼区間も他の職業とは重なっていない。

「教育程度」については、「小学校」(6.87)で平均値が最も高くなっている。そして、「字が読めない」(6.24)を除くと「小学校」から「大学」(6.20)にかけて勾配は緩やかであるが直線的に平均値が低くなっている。「強者像(具体的な人間の力)」に対する志向性は、学校教育を受けた場合には教育程度が高くなる程その傾向が弱まること、そして、「字が読めない」で「大学」とほぼ等しい平均値をとることから、むしろ初等教育水準で形成される特徴と言える。

(14) 中国法意識スケーリング (2・完)

「党派」については、「一般市民」(6.61)、「共産党員」(6.24)、「共青団員」(6.13)、そして、「民主党派」(5.83)の順に「強者像」への志向性が弱くなっている。「精神面での力」に対する志向性で特に差異が見られなかったのに対して、わずかではあるが、「一般市民」の平均が最も高い値を示すことが注目される。

「家庭の経済状況」については、「上」から「下」にかけて順に6.71, 6.37, 6.37, 6.50, 6.90であり、わずかではあるが、両端で高くなる傾向が見られる。

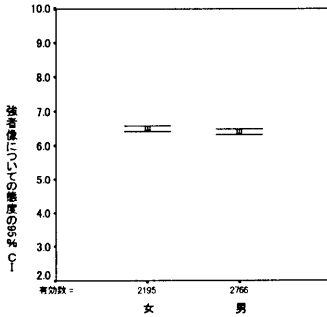


図15-1 性別にみた強者像についての態度

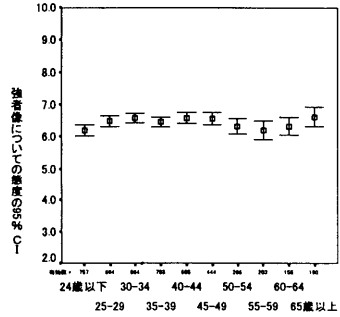


図15-2 年齢別の強者像についての態度

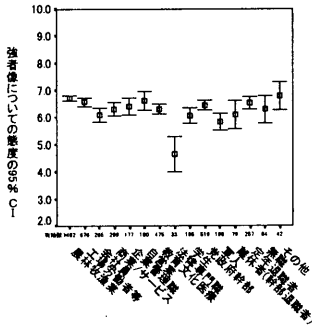


図15-3 職業別の強者像についての態度

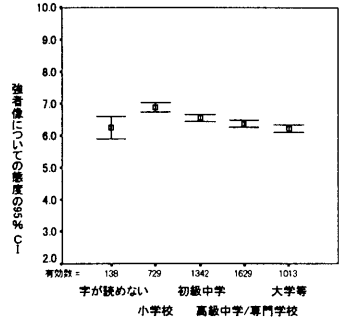


図15-4 教育程度別の強者像についての態度

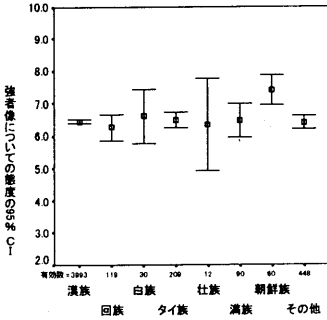


図15-6 民族別の強者像についての態度

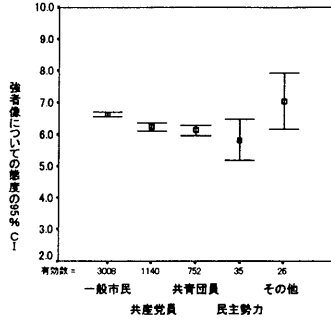


図15-6 党派別の強者像についての態度

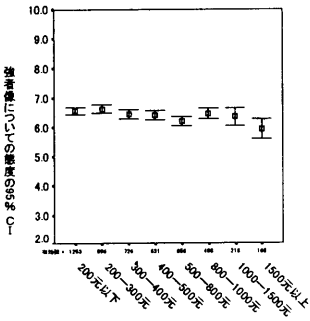


図15-7 所得階級の強者像についての態度

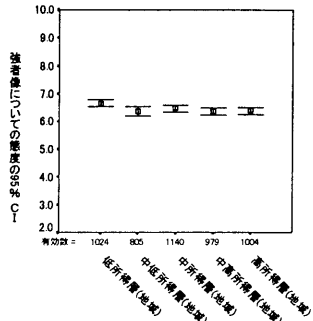


図15-8 地域別に標準化した所得階級の強者像についての態度

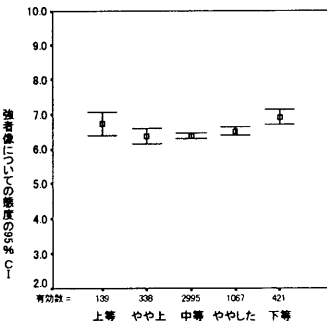


図15-9 家庭の経済状況別の強者像についての態度

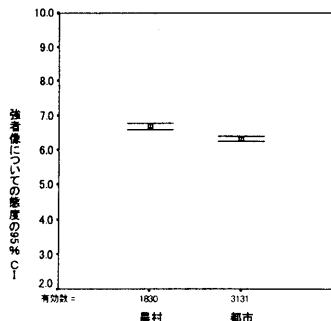


図15-10 居住地別の強者像についての態度





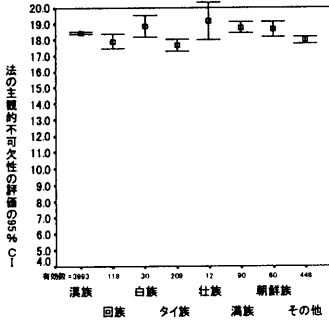


図16-5 民族別の法の主観的不可欠性の評価

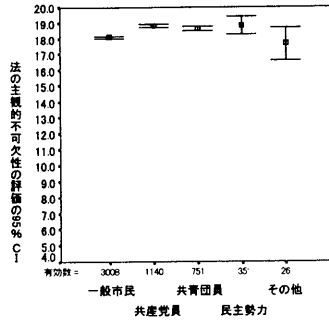


図16-6 党派別の法の主観的不可欠性の評価

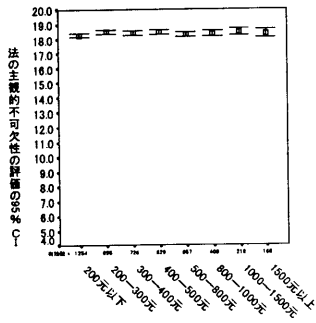


図16-7 所得階級別の法の主観的不可欠性の評価

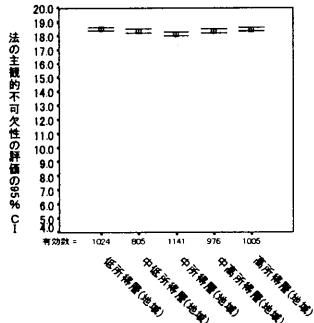


図16-8 地域別に集約化した再帰分析の法の主観的不可欠性の評価

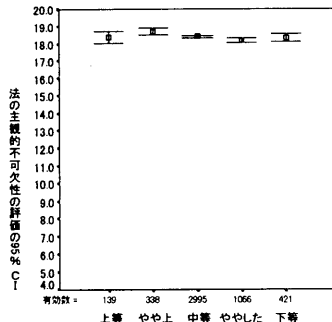


図16-9 家庭の経済状況別の法の主観的不可欠性の評価

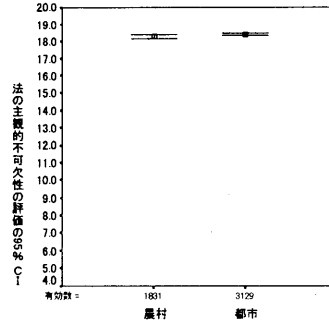


図16-10 居住地別の法の主観的不可欠性の評価

## (6) 法遵守の根拠スケール

「法の遵守の根拠」の属性別の結果は、附表および図17に示す通りである。

「年齢別」に見ると、図17に示すように「45—49歳」(9.86)で他の年齢段階(下から順に、9.40, 9.13, 9.24, 9.29, 9.39, 9.40, 9.15, 8.96, 9.05)に比べて平均値が突出して大きい値を示している。他の年齢段階よりも「国家が強制するから法を遵守する」と考えるよりも「法そのものに論理的な妥当性、内容の正当性があるから法を遵守する」、そして「法は市民の権利を守るためにある」と考える傾向が強いと言える。

「職業別」では、「農林牧漁業」が他と比べて平均値が高く(9.92)、信頼区間も重ならない。すなわち、他の職業と比べて国家による法の遵守の強制という認識が高いことを表わす。これに対して「法律専門職」では平均値が8.48と低い値を示している。ただし、いずれの職業についても尺度得点の平均値が9.0程度の水準にあり、必ずしも全体として国家による強制感が強いわけではない。

「教育程度」については、「初級中学」(9.86)で平均値が最も高く、「小学校」(9.70)で次いで高い値を示し。「字が読めない」(8.82)、「高級中学・専門学校」(9.21)、「大学」(8.69)で低くなっている。「精神面での力に関する態度スケール」と同様に、山なりの形状を示している。平均値は何れの場合も中間点9.0前後の値をとり、「国家により法を遵守することが強制されている」という認識は必ずしも一般に持たれているというわけではない。

「所得」については、基本的には所得が高くなるほどスケール得点の平均値が低くなっており(順に9.90, 9.83, 9.35, 9.14, 8.71, 8.48, 8.38, 8.52)、法を遵守する根拠として、「国家権力によって法を守るこ

とが強制されている」と、「法の内容の正当性、そして法が国家の侵害から市民の権利を守るといふこと」との中間にあると思われる。

「家庭の経済状況」については、「上」(9.14)、「中の上」(9.31)、「中」(9.30)、「中の下」(9.09)、「下」(10.09)であり、「下」と回答した者において法の遵守の根拠を「国家による強制」に求める傾向がわずかではあるが強くなっている。

「居住地」については、平均値が「都市」で8.97、「農村」で9.92である。標準偏差はそれぞれ、2.97と3.12であり、これに対して平均値の差は絶対値で0.95とそれ程大きいとは言えないが、「農村」の方が「都市」よりも、法遵守の根拠を「国家による強制」に求める傾向が相対的に強くなっている。

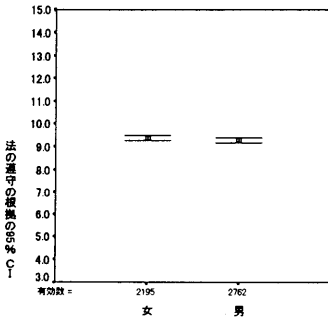


図17-1 性別にみた法の遵守の根拠

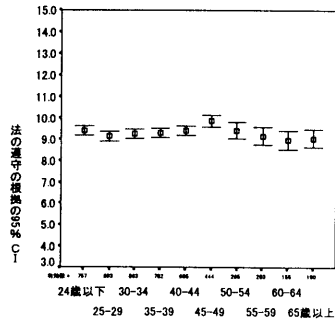


図17-2 年齢別の法の遵守の根拠

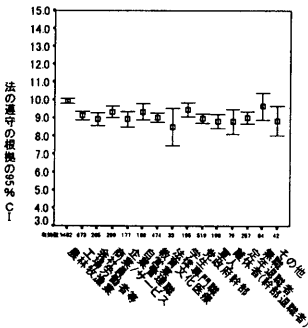


図17-3 職業別の法の遵守の根拠

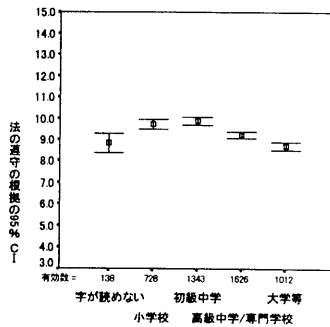


図17-4 教育程度別の法の遵守の根拠

(20) 中国法意識スケーリング (2・完)

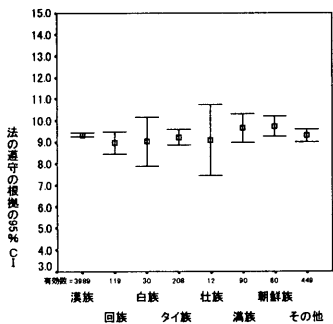


図17-5 民族別の法の遵守の指標

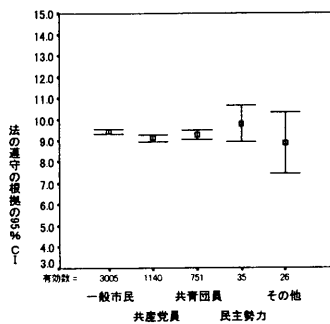


図17-6 党派別の法の遵守の指標

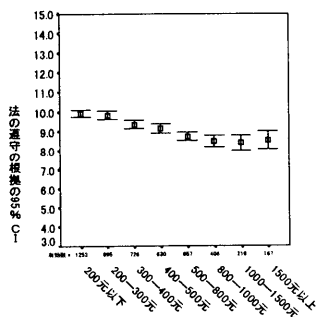


図17-7 所得段階別の法の遵守の指標

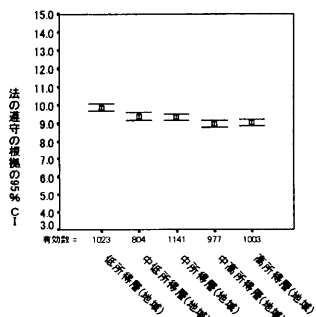


図17-8 地域別に標準化した所得段階別の法の遵守の指標

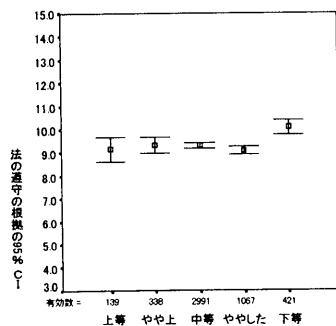


図17-9 家庭の経済状況別の法の遵守の指標

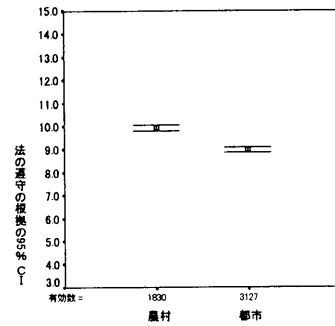


図17-10 居住地別の法の遵守の指標

(7) 法なき社会イメージスケール

「法なき社会イメージ」の属性別の結果は、附表および図18に示す通りである。

「職業」に関しては、「法律専門職」(13.91)と「革命事業の幹部定年退職者」(13.81)とが、他と比べて高い平均値を示している。

「教育程度」に関しては、教育程度があがるにつれて、平均値が順に12.24, 12.38, 12.56, 12.73, 12.87と高くなり、法の無い社会は無秩序で混乱した社会になると考えている傾向がやや見られる。ただし、最も平均値の低い「字が読めない」群でも12.24であり、あくまで相対的にこのような傾向が見られるということであり、全体としてとして大部分の回答者が「法なき社会」を理想的な社会とは考えていない。現代中国社会では「徳治」を現実的なものとは考えられてはいないようである。

「党派」については、「一般市民」(12.50)、「共産党員」(13.15)、「共青团員」(12.53)、そして、「民主党派」(13.51)であり、「共産党員」と「民主党派」で相対的に高い値を示している。

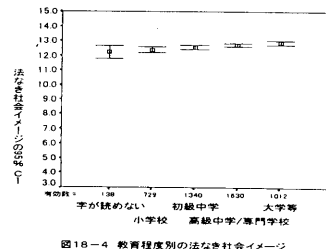
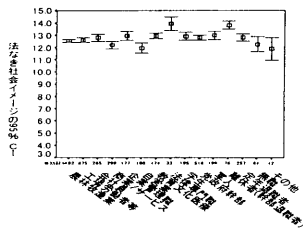
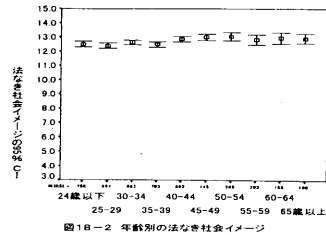
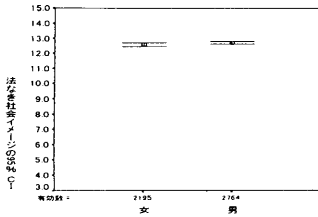


図18-3 職業別の法なき社会イメージ

図18-4 教育程度別の法なき社会イメージ

(22) 中国法意識スケーリング (2・完)

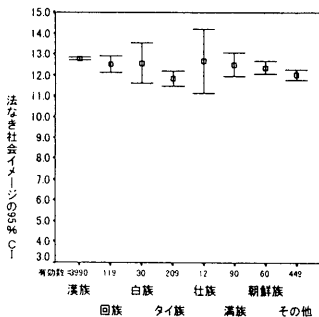


図18-5 民族別の法なき社会イメージ

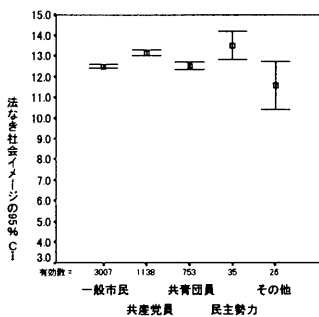


図18-6 党派別の法なき社会イメージ

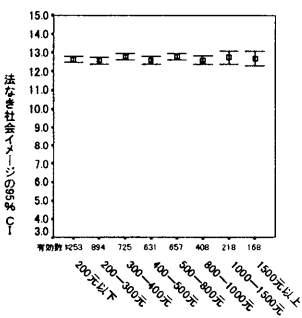


図18-7 所得段階別の法なき社会イメージ

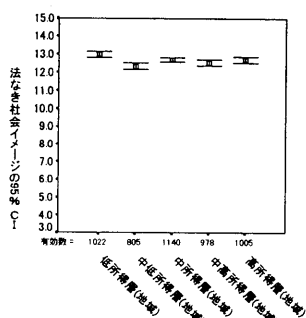


図18-8 地域別に標準化した所得段階別の法なき社会イメージ

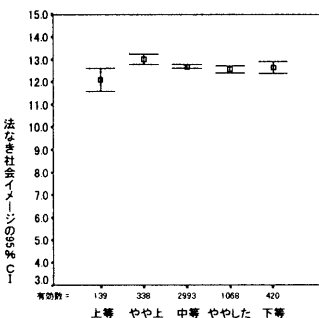


図18-9 家庭の経済状況別の法なき社会イメージ

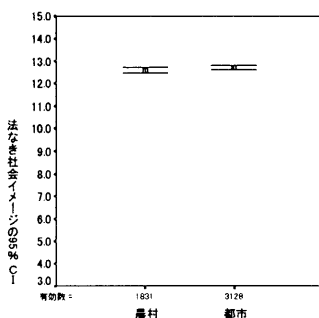


図18-10 居住地別の法なき社会イメージ

**(8) 法に対する好感度スケール**

「法に対する好感度」の属性別の結果は、附表および図19に示す通りである。

「年齢別」に見ると、下から順に13.60, 13.29, 13.26, 13.17, 13.05, 12.82, 12.75, 13.12, 13.24, 13.38で、「45—49歳」と「50—54歳」を底にして、それより低い年齢についても、高い年齢についても平均値が高くなる傾向がゆるやかではあるが見て取れる。

「職業別」では、信頼区間が重なるものの、スケール得点の平均値で「農林牧漁業」(13.53)、「商業・サービス業」(13.07)と「党・政府幹部」(13.26)、そして「工場労働者等」(12.61)と「自営業」(12.82)の3グループに分かれ、順に平均値が小さくなっている。すなわち、法に対する好感度が相対的に小さくなっている。それでも、平均値はスケールの中間点12.0を超えており、全体としてはどちらかと言えば好感度が高い。

「教育程度」に関しては、「字が読めない」(13.39)から「高級中学・専門学校」(13.07)にかけて平均値がわずかながら下がり、「大学」(13.39)で逆に「小学校」(13.27)よりも高い値を示している。ただし、何れの場合も、尺度の中間点12.0を超えており、全体としてはどちらかと言えば好感度が高い。

「民族」に関しては、「漢族」(13.03)、「回族」(12.89)、「白族」(13.20)、「タイ族」(15.42)、「壮族」(12.92)、「満族」(13.57)、「朝鮮族」(14.25)であり、「タイ族」できわだって高い値を示している。

「所得」との関係では、所得が高くなるほどスケール得点の平均値が相対的に低い値を示しており(順に13.56, 13.19, 13.18, 13.23, 13.10, 12.60, 12.93, 12.89)、法に対する好感度が相対的に低くなっている。

〈24〉 中国法意識スケーリング (2・完)

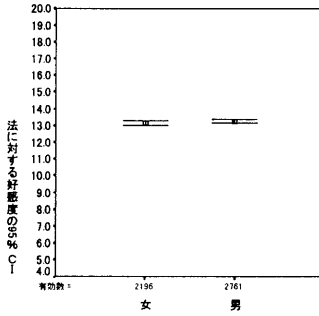


図19-1 性別にみた法に対する好感度

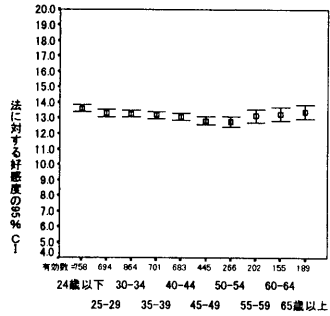


図19-2 年齢別の法に対する好感度

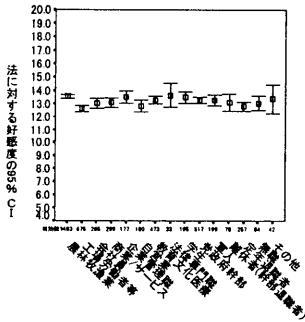


図19-3 職業別の法に対する好感度

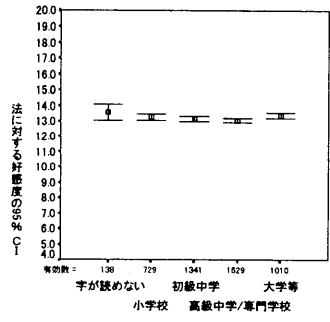


図19-4 教育程度別の法に対する好感度

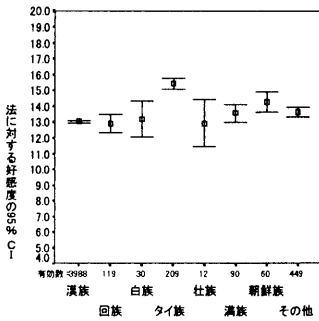


図19-5 民族別の法に対する好感度

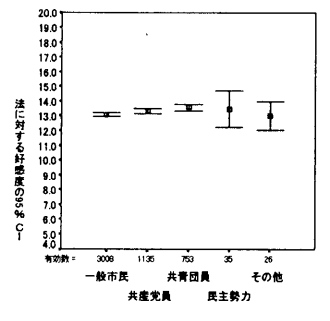


図19-6 党派別の法に対する好感度



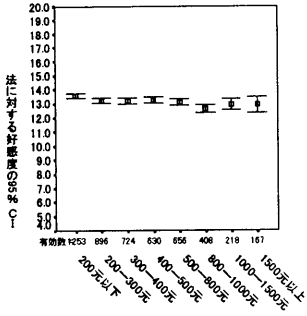


図19-7 所得段階別の法に対する好感度

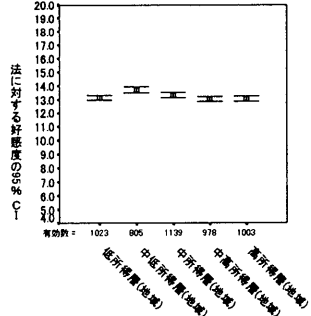


図19-8 地域別に標準化した所得段階別の法に対する好感度

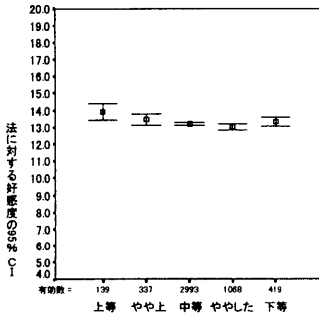


図19-9 家庭の経済状況別の法に対する好感度

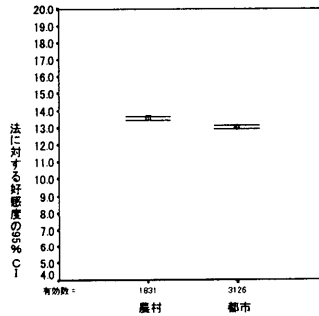


図19-10 居住地別の法に対する好感度

〈26〉 中国法意識スケーリング (2・完)

(9) 遵法度スケール

「遵法度」の属性別の結果は、附表および図20に示す通りである。

「年齢別」に見ると、下から順に22.67, 22.39, 22.59, 22.63, 22.90, 23.46, 23.49, 23.47, 23.84, 23.79であり、図9でも見られるように、45歳未満と45歳以上との間に平均値の断層(23.0をはさんで上下に分かれる)が見られ、信頼区間についても45歳未満と45歳以上の年齢段階間ではほとんど重なりがないことが見て取れる。すなわち、45歳未満の方が45歳以上と比べて相対的に遵法度が弱いと言える。

「職業」に関しては、「法律専門職」(24.27)と「革命事業の幹部定年退職者」(25.03)において、他の職業(22.30から23.86)よりも平均値が高くなっている。

「党派」については、「一般市民」(22.54)、「共産党員」(23.86)、「共青团員」(22.70)、そして、「民主党派」(24.03)であり、「共産党員」と「民主党派」で相対的に高い値を示している。

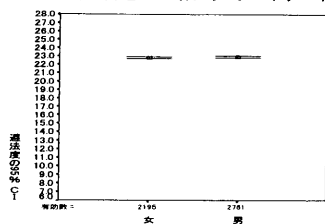


図20-1 性別にみた遵法度

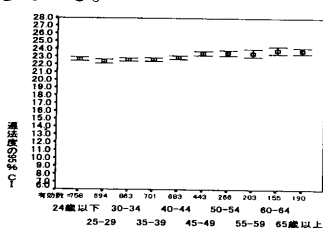


図20-2 年齢別の遵法度

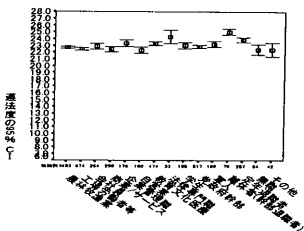


図20-3 職業別の遵法度

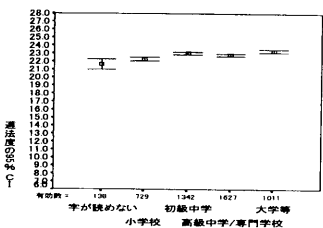


図20-4 教育程度別の遵法度

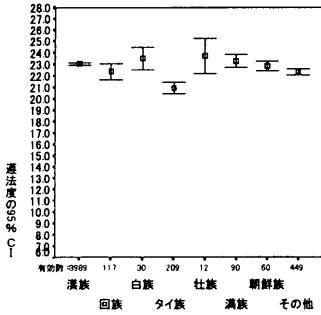


図20-6 民族別の選法度

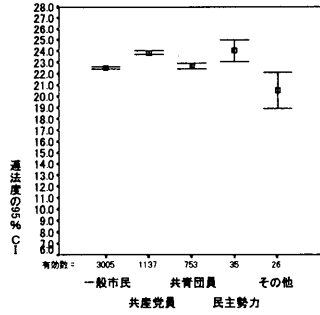


図20-6 党派別の選法度

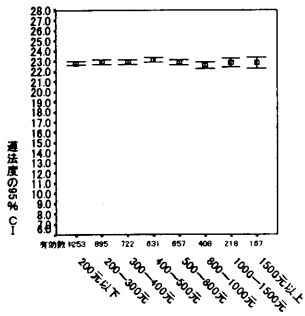


図20-7 所得段階別の選法度

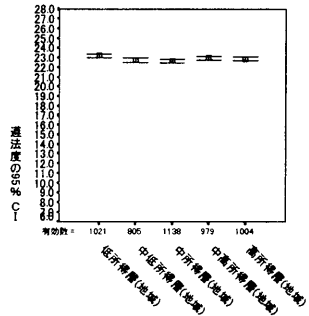


図20-8 地域別に標準化した所得段階別の選法度

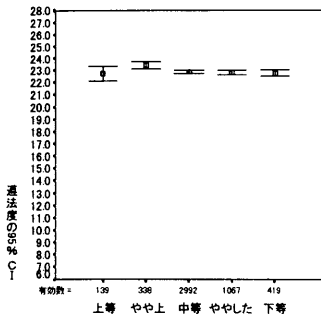


図20-9 家庭の経済状況別の選法度

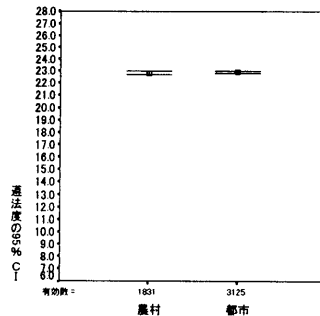


図20-10 居住地別の選法度

〈28〉 中国法意識スケーリング (2・完)

(10) 国家機関に対する信頼度スケール

「国家機関に対する信頼度」の属性別の結果は、附表および図21に示す通りである。

「教育程度」に関しては、順に18.88, 19.37, 20.10, 19.78, 19.21であり、「初級中学」(20.10)で最も平均値が高い山なりの形状を示している。すなわち、「初級中学」で国家機関に対する信頼度が最も強く、それよりも教育程度が低い場合でも、高い場合でも信頼度が相対的に低くなる。いずれの場合についても、平均値が尺度の中間点15.0よりも高く、信頼区間の下限についても同様であるので、全体として国家機関はかなり信頼される傾向にあると言える。

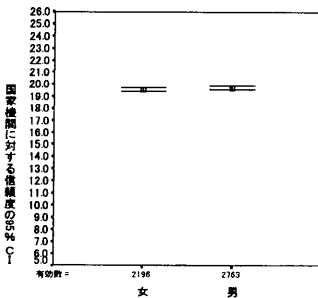


図21-1 性別にみた国家機関に対する信頼度

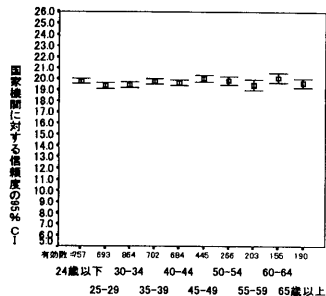


図21-2 年齢別の国家機関に対する信頼度

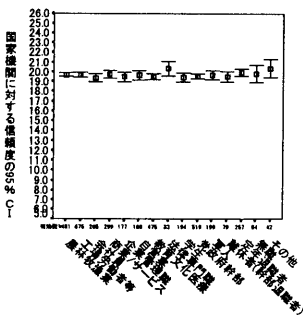


図21-3 職業別の国家機関に対する信頼度

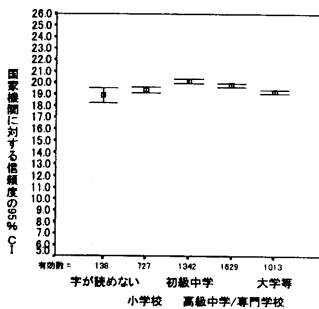


図21-4 教育程度別の国家機関に対する信頼度

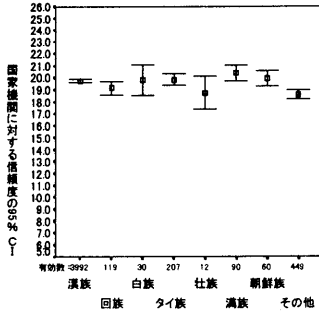


図21-5 民族別の国家権限に対する信頼度

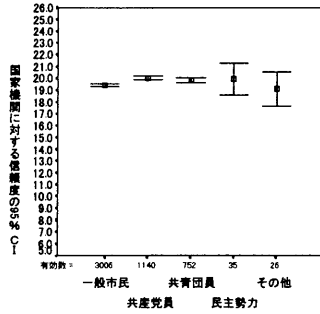


図21-6 党派別の国家権限に対する信頼度

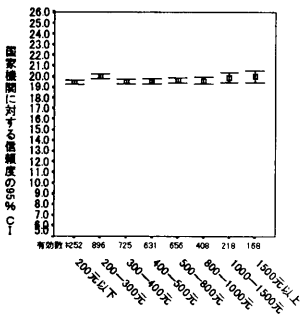


図21-7 所得段階別の国家権限に対する信頼度

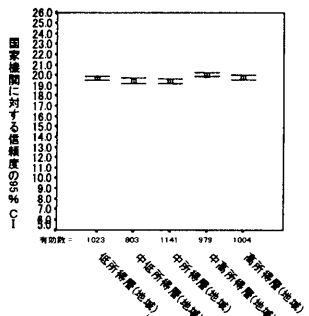


図21-8 地域別に標準化した所得段階別の国家権限に対する信頼度

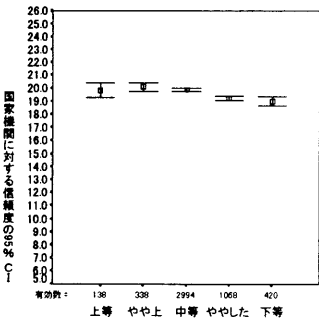


図21-9 家庭の経済状況別の国家権限に対する信頼度

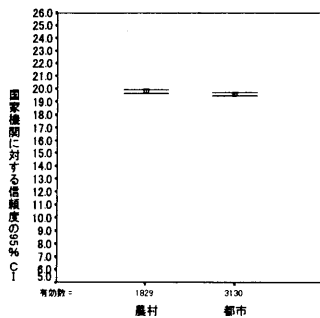


図21-10 居住地別の国家権限に対する信頼度

(11) 法的紛争解決行動に対する評価スケール

「法的紛争解決行動に対する評価」の属性別の結果は、附表および図22に示す通りである。

「年齢別」に見ると、「24歳以下」から「50—54歳」までは順に33.08, 33.42, 33.69, 34.10, 34.29, 34.77, 35.13と年齢の増加にともなって平均値が上がっているが、「55—59歳」(33.16)、「60—64歳」(32.64)、「65歳以上」(33.65)ではほぼ「24歳以下」と同じ値を示している。すなわち、年齢の増加とともに「法的手段による紛争解決」を望ましいと考える傾向が見られるが、55歳以上の年齢の人々は必ずしもそうは考えていないことが示されている。

「教育程度」で見ると、「小学校」(34.76)と「初級中学」(34.67)とで平均値が最も高く、「高級中学・専門学校」(33.58)、「大学」(32.60)と順に低くなっている。また「字が読めない」(32.30)については「大学」とほぼ同じ値を示している。すなわち、「小学校」および「初級中学」で、紛争を解決するのに法的な手段を用いることを望ましいとする傾向が強く、教育程度がそれよりも低い場合も、高い場合もその傾向が弱くなっている。何れの場合も、平均値が尺度の中間点27.0よりもかなり高い値を示しており、全体として、紛争を解決するのに法的な手段を用いることを望ましいとする傾向があると言える。

「民族」に関しては、「漢族」(34.26)、「回族」(32.71)、「白族」(32.48)、「タイ族」(28.00)、「壮族」(31.75)、「満族」(34.11)、「朝鮮族」(27.08)であり、「タイ族」と「朝鮮族」とで明確に低い値を示している。

「党派」に関しては、「一般市民」(34.04)、「共産党員」(33.81)、「共青团員」(32.90)、そして、「民主党派」(36.47)であり、「民主党派」が他と比べて高い値を示している。

「所得」との関係では、所得が高くなるほどスケール得点の平均値が

低い値を示す傾向が基本的に見られ（順に34.65, 34.28, 33.45, 33.55, 33.88, 33.09, 32.19, 31.30）、紛争を解決するのに法的な手段を用いることが必ずしも好ましいとは考えられていない。

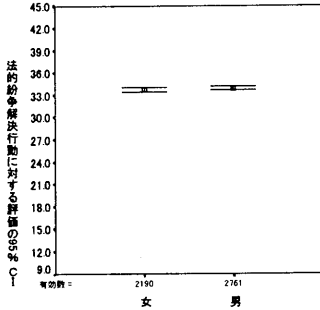


図22-1 性別にみた法的紛争解決に対する態度

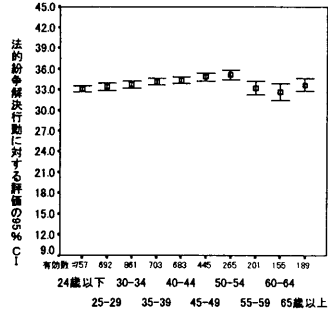


図22-2 年齢別の法的紛争解決に対する態度

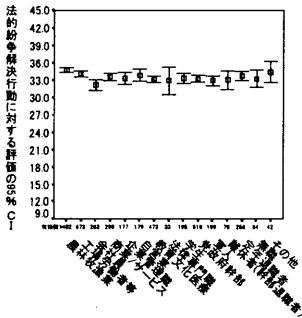


図22-3 職業別の法的紛争解決に対する態度

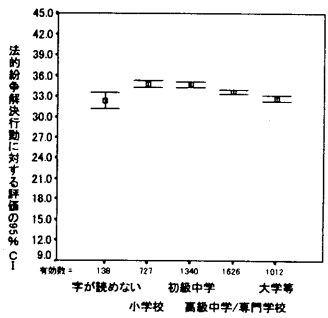


図22-4 教育程度別の法的紛争解決に対する態度

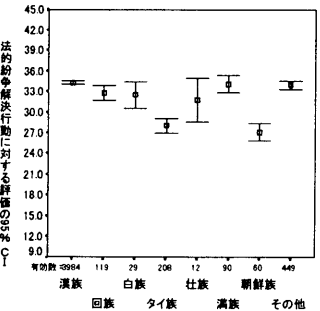


図22-5 民族別の法的紛争解決に対する態度

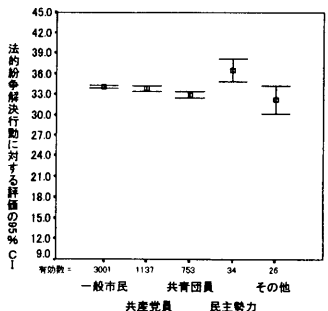


図22-6 党派別の法的紛争解決に対する態度

〈32〉 中国法意識スケーリング (2・完)

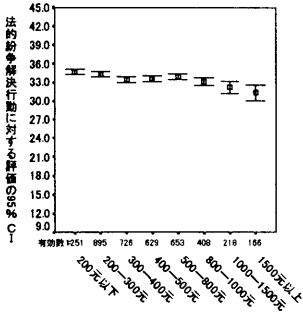


図22-7 所得階別の法的紛争解決に対する態度

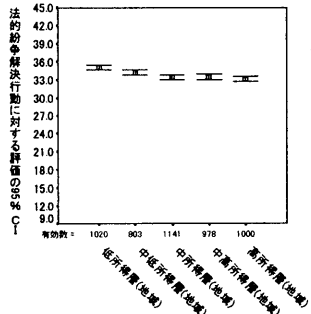


図22-8 地域別に標準化した所得階別の法的紛争解決に対する態度

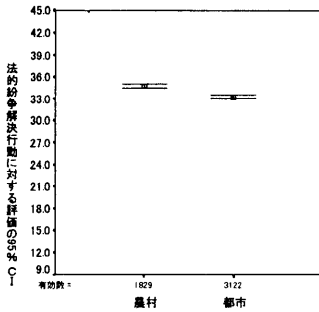


図22-10 居住地別の法的紛争解決に対する態度

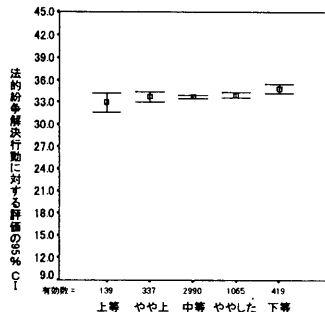


図22-9 家庭の経済状況別の法的紛争解決に対する態度

6. 結 語

以上で各スケールを属性別に見た本調査の基本的統計分析を終える。これを基にして、さらに中国人の法意識についての社会的背景をも踏まえた、より立ち入った分析については、「中国人の法意識－1995年中国全国調査（1）から（4）・未完」ジュリスト1169号（1999年）、1172号、1173号、1178号（以上2000年）を参照されたい。



【附表1】性別でみた各スケールの基本統計

性別	生活満足度	政治関心度	精神面での力に対する態度	精神面での力についての態度	法意識についての態度	法の主観的不可侵性の評価	法の遵守の意識	法な社会イメージ	法に対する片断態度	選法態度	国家機関に対する信頼度	法廷外紛争解決手段に対する態度
女性	2196	2197	2195	2196	2195	2195	2195	2195	2196	2195	2196	2196
平均値	75489	99513	127175	64864	182028	93667	125838	131512	227872	193770	337365	337365
標準偏差	13397	29353	17917	20955	21228	29008	25884	29537	32173	33840	67205	67205
男性	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	76037	110115	127168	64864	182028	93667	125838	131512	227872	193770	337365	337365
標準偏差	13079	29353	17917	20955	21228	29008	25884	29537	32173	33840	67205	67205
合計	4859	4861	4859	4861	4859	4859	4859	4859	4859	4859	4859	4859
平均値	75785	105422	127467	64495	183538	93208	126582	132054	228892	196413	338204	338204
標準偏差	13209	28821	18657	21142	21026	29031	25609	29710	32858	33874	67946	67946

【附表2】年齢別でみた各スケールの基本統計

Age group	生活満足度	政治関心度	精神面での力に対する態度	精神面での力についての態度	法意識についての態度	法の主観的不可侵性の評価	法の遵守の意識	法な社会イメージ	法に対する片断態度	選法態度	国家機関に対する信頼度	法廷外紛争解決手段に対する態度
25-29	7556	7558	757	758	757	757	757	758	758	758	757	757
平均値	74497	103945	128821	64864	182028	93667	125838	124921	135976	229741	197728	330819
標準偏差	13394	29353	17917	20955	21228	29008	25884	26771	29948	32162	34162	64949
30-34	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	73444	102233	126199	64864	182028	93667	125838	123833	132853	223876	193832	334226
標準偏差	15103	28075	17912	20653	21006	29031	25815	26515	30886	34093	35822	69229
35-39	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	75832	108113	127593	65775	183449	92410	126153	132616	225852	194317	336822	336822
標準偏差	12442	28425	16845	20755	20695	29352	26952	29862	31412	36182	69334	69334
40-44	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	76515	103940	128193	64509	182219	92883	124765	131726	226305	197350	341038	341038
標準偏差	13872	29353	17917	20955	21228	29008	25884	26771	29948	32162	34162	64949
45-49	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	76994	107508	127358	65781	184423	93898	126386	130488	228006	195584	342882	342882
標準偏差	11957	29039	18206	21382	19568	29894	26577	28408	32787	32469	66887	66887
50-54	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	77416	107995	128112	65541	183348	96559	129730	128202	234605	200157	347730	347730
標準偏差	13094	30736	19487	20189	20071	29239	26039	29537	30782	32903	64532	64532
55-59	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	77744	107669	127970	63195	182443	94038	130189	127481	234887	198195	351283	351283
標準偏差	13274	30756	19487	20189	20071	29239	26039	29537	30782	32903	64532	64532
60-64	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	77783	107923	128463	64703	183203	94203	128203	130408	234603	200153	347730	347730
標準偏差	13220	30808	19556	20345	20866	29856	26515	28588	32666	32469	66887	66887
65歳以上	7603	7603	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604	7604
平均値	78117	106903	128117	63161	183548	89613	129161	132387	236387	200710	326387	326387
標準偏差	12771	29891	16119	17161	22266	26602	26652	28877	28886	29588	73986	73986
合計	74884	101158	128630	68105	181526	90474	128842	133757	237885	198211	336508	336508
平均値	7598	7598	7598	7598	7598	7598	7598	7598	7598	7598	7598	7598
標準偏差	13209	29246	18638	20936	20936	29246	26457	29376	30928	29055	28495	4951
平均値	74884	101158	128630	68105	181526	90474	128842	133757	237885	198211	336508	336508
標準偏差	13209	29246	18638	20936	20936	29246	26457	29376	30928	29055	28495	4951

(34) 中国法意識スケーリング (2・完)

【表3】調査票別でみた各スケールの基本統計

職業	生活満足度	政治関心度	精神面での力に対する態度	消費者について	法の主権的不可侵性	法の遵守の程度	法が社会をメーンとする	法に対する許容度	理法度	国家機関に対する信頼度	法執行機関に対する信頼度
農林牧漁業	平均値 1810	10.255	1463	1462	18483	1482	1483	1483	1483	19847	1482
標準偏差	11137	3.015	19850	2.059	24274	9197	15394	13380	22485	19847	347767
工業労働者等	平均値 676	6.678	676	676	1616	2.673	2.673	2.673	2.673	3.525	6.932
標準偏差	11346	12.622	6636	6636	18198	9100	12511	12511	22433	19652	344036
会社員	平均値 263	2.55	264	265	265	265	265	265	264	3.529	6.824
標準偏差	76160	10.357	6068	6068	18268	8904	12711	13015	22447	19374	321939
商業・サービス	平均値 13021	2.645	21364	21364	21364	21364	21364	21364	21364	3.389	7.4601
標準偏差	7299	2.98	62843	62843	107326	93211	121906	130689	22428	19425	336020
企業管理職	平均値 1377	2.886	1377	1377	1377	1377	1377	1377	1377	3.734	6.1714
標準偏差	76554	11.785	12909	12909	187119	89066	129435	134859	203836	194680	332446
自営業	平均値 12658	2.3010	17445	21409	18804	29815	24742	31535	34826	31188	6.7823
標準偏差	77611	8.2000	128667	65944	178000	93167	119500	128167	223000	186222	338380
教育文化医療	平均値 11976	2.7894	16227	23770	20417	31329	27570	29549	32406	33144	7.1431
標準偏差	475	475	475	475	474	474	474	473	474	475	473
教育文化医療	平均値 73674	13.354	126653	63011	183877	90027	129456	132227	232743	195263	331628
標準偏差	12584	24133	186153	23272	17487	23788	33084	30715	30715	31677	88921
法律専門職	平均値 33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
標準偏差	78485	12.6951	12424	45384	186250	84843	139081	135264	242372	202369	329233
学生	平均値 10932	1.3905	16208	18510	21081	29168	15683	25226	29609	21419	6.7255
標準偏差	185	185	185	185	185	185	185	185	185	184	185
児童福祉部	平均値 72718	10.7622	128513	60615	187026	94359	129026	134718	230410	194588	333385
標準偏差	12975	2.3840	17181	19939	17685	28046	23385	29063	32892	32353	6.0792
警察官	平均値 517	519	519	519	519	519	518	517	517	519	518
標準偏差	75609	12.2023	126185	64432	187688	89976	127688	132631	228549	195279	332471
一般人	平均値 11148	1.8793	16940	20842	17094	28898	23389	27822	30411	29713	6.4658
標準偏差	7499	2.96	62843	62843	107326	93211	121906	130689	22428	19425	336020
属休者(停職退職者)	平均値 12424	2.6427	17947	23037	178857	27778	24841	29731	30853	19502	329046
標準偏差	79	78	78	79	79	78	78	78	79	79	78
定年退職者	平均値 75443	11.8228	132692	60886	188861	87848	136077	131026	205253	195190	3310256
標準偏差	16702	2.2632	13061	22825	14587	30368	14239	28902	20253	24012	7254
無職	平均値 74397	9.9844	129027	62124	182685	90117	127938	128171	238838	198650	337148
標準偏差	14077	3.0593	17054	19710	21419	29310	25156	29050	30930	30853	6.6084
その他	平均値 676	6.678	676	676	1616	2.673	2.673	2.673	2.673	3.525	6.932
標準偏差	11346	12.622	6636	6636	18198	9100	12511	12511	22433	19652	344036
その他	平均値 42	42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
標準偏差	76429	9.9048	124048	67857	178571	88333	133571	224046	203872	29889	6.0079
標準偏差	10078	3.1453	16883	19753	26186	26004	30138	33410	32764	29889	6.0079
合計	平均値 75785	10.5422	127467	64895	183338	93208	126562	132054	228892	196413	338204
標準偏差	13309	2.8821	18057	21442	21026	30931	25609	29710	32858	33874	6.7846

【附表4】教育程度別でみた各スケールの基本統計

	生活満足度	政治関心度	情熱での力 に及ぶもの	投票権に及 びての満足	法の主観的不可 侵性の程度	法の遵守 の程度	法なき社会 への不安	法に対する 野望	選挙権 の行使	国家権限に対 する態度	法的紛争解 決行動に及 ぶもの
総観	158	158	157	158	158	158	158	158	158	158	158
平均値	7.622	8.2319	12.2701	6.2391	17.1232	8.8188	12.2391	13.5852	21.6159	18.8841	32.3943
標準偏差	1.6038	3.4499	1.9871	2.0580	2.8573	2.7077	2.6070	2.9718	3.7481	4.0850	7.2460
小学校	729	729	728	729	729	728	728	729	729	727	727
平均値	7.7517	9.4170	12.5865	6.8683	17.9973	9.6992	12.3813	13.2730	22.2785	19.3686	34.7579
標準偏差	1.2645	3.3036	2.0009	1.9742	2.4540	3.2959	2.8055	2.9274	3.4439	3.6555	6.8553
初級中学	732	732	734	732	734	734	734	732	732	734	734
平均値	7.8677	10.1401	13.0141	6.5022	18.3248	9.8535	12.5582	13.1529	23.0216	20.1038	34.6746
標準偏差	1.6077	2.8530	1.8158	2.1159	2.8158	3.1458	2.8835	3.0698	3.3184	3.4783	6.5776
高級中学/専門学校	1658	1658	1658	1658	1658	1658	1658	1658	1658	1658	1658
平均値	7.4717	10.8871	12.7197	6.3834	18.3982	9.2060	12.7337	13.0689	22.8236	19.7780	33.5765
標準偏差	1.3359	2.6640	1.7727	2.1451	1.9889	2.9289	2.4705	2.9228	3.2234	3.2286	6.7818
大学等	1012	1012	1013	1013	1013	1012	1012	1010	1011	1013	1012
平均値	7.4079	11.8043	12.6525	6.2024	18.7283	8.6897	12.8745	13.3911	23.3363	19.2063	32.5958
標準偏差	1.3220	2.2201	1.6351	2.0755	1.7512	2.8740	2.3369	2.9887	3.0383	2.9815	6.8956
合計	4849	4851	4849	4851	4850	4847	4849	4847	4847	4849	4843
平均値	7.5763	10.5081	12.7515	6.4510	18.3468	9.3412	12.6476	13.2034	22.8690	19.6622	34.8164
標準偏差	1.3221	2.8881	1.8138	2.1167	2.1074	3.0395	2.5958	2.9844	3.2842	3.3627	6.8136

(36) 中国法意識スケーリング (2・完)

【附表3】既述別でみた各スケールの基本統計

民族	生活満足度	政治関心度	精神面での力に対する意識	消費者についての意識	法の主動的/不 可及性の対価	法の遵守	法意識社会 イメージ	法に対する 好悪度	理法性	国家機関に対 する信頼度	法執行に対 する評価
漢族	平均値 7,321.6	10,672.7	12,780.5	6,444.5	18,428.5	9,334.4	12,780.0	13,027.6	23,033.8	19,792.2	3,984
	標準偏差 1,343.5	2,873.5	1,758.8	2,109.7	2,023.8	3,097.5	2,520.0	2,927.6	3,297.8	3,285.5	54,639.7
回族	平均値 1,118	10,504.2	12,554.6	6,260.5	17,889.8	8,974.8	12,512.6	12,890.8	22,339.0	19,139.7	32,705.9
	標準偏差 1,399.2	2,779.7	2,028.2	2,180.3	2,507.4	2,784.5	2,228.0	3,161.7	3,717.3	3,008.4	6,025.5
白族	平均値 7,533.3	10,569.7	13,033.3	6,000.0	18,833.3	9,003.3	12,566.7	13,600.0	23,500.0	18,833.3	32,482.8
	標準偏差 1,332.2	2,329.5	2,222.1	1,693.1	1,782.7	3,045.4	2,595.5	3,021.8	2,639.0	3,424.9	5,103.4
ウイグル族	平均値 8,169.9	9,610.9	12,603.8	6,469.8	17,632.2	9,208	11,734.6	15,703	20,809.2	18,833.7	27,992.2
	標準偏差 1,339.1	2,870.5	1,830.0	1,785.3	2,632.3	2,751.6	2,634.6	2,418.8	3,313.5	3,367.2	7,742.1
壮族	平均値 8,000.0	12,000.0	12,290.0	6,333.3	19,167.7	9,083.3	12,668.7	12,916.7	23,750.0	18,750.0	31,790.0
	標準偏差 738.5	2,000.0	1,358.8	2,229.3	1,850.5	2,574.6	2,424.6	2,533.3	2,416.8	2,179.4	4,932.2
漢族	平均値 7,766.7	10,533.3	13,155.6	6,466.7	18,755.6	9,644.4	12,488.9	13,866.7	23,266.7	20,377.8	34,111.1
	標準偏差 1,218.3	2,832.2	1,920.9	2,459.6	1,689.1	3,166.9	2,674.2	2,731.6	2,653.9	3,019.0	5,789.8
朝鮮族	平均値 8,020.0	9,816.7	12,861.7	7,400.0	18,667.7	9,716.7	12,350.0	14,450.0	22,800.0	19,900.0	27,083.3
	標準偏差 1,020.0	2,466.7	1,776.7	1,416.7	1,816.7	2,116.7	1,216.7	2,413.3	1,586.7	2,403.3	4,923.4
その他	平均値 7,752.2	9,834.8	12,370.5	6,388.4	17,989.8	9,273.9	12,018.6	13,639.2	22,300.7	18,584.8	33,931.0
	標準偏差 1,020.5	2,877.7	2,121.8	2,223.7	2,367.5	3,089.9	2,875.5	3,169.8	2,857.6	4,308.0	6,500.1
合計	平均値 7,578.5	10,542.2	12,746.7	6,449.5	18,353.8	9,320.8	12,658.2	13,605.4	22,869.2	19,641.3	33,820.4
	標準偏差 1,320.9	2,882.1	1,865.7	2,114.2	2,104.8	3,063.1	2,569.9	2,371.0	3,265.8	3,387.4	6,734.6



〈38〉 中国法意識スケーリング (2・完)

【附表7】所轄除障列でみた各スケールの基本統計

各々の属性名員の平均 負担はどれくらいですか 200元以下	生活満足度	政治関心度	精神での力 に与える影響	消費者の力 についての見解	法の活動状況 が生活に与える影響	法の遵守 の状況	法の社会 への関心	法に訴える 状況	選法者	国家機関に訴 える頻度	法的紛争に 訴え掛ける 割合
度数	1254	1253	1253	1253	1254	1253	1253	1253	1253	1253	1253
平均値	7,8268	10,2571	12,9210	6,5619	18,2480	9,8955	12,6281	13,5526	22,7741	19,4297	34,6539
標準偏差	1,3849	3,0809	1,9003	2,1800	2,7440	3,1589	2,8501	2,9414	3,4002	3,6845	6,9509
度数	896	885	885	886	885	885	884	886	885	886	885
平均値	7,5536	10,5877	12,8908	6,6306	18,4827	9,8279	12,5828	13,1942	22,9061	19,9844	34,2827
標準偏差	1,2951	2,8306	1,8458	2,1259	1,9993	3,0666	2,7488	2,8655	3,1898	3,3559	6,6672
度数	744	726	726	726	726	726	725	724	725	725	726
平均値	7,3244	10,8425	12,8125	6,4745	18,3823	9,3512	12,7669	13,1754	22,9224	19,4255	33,4545
標準偏差	1,2831	2,5809	1,7983	2,1643	2,1633	2,6721	2,8731	2,8339	3,2006	3,2773	6,6051
度数	629	631	630	630	630	630	630	630	630	630	630
平均値	7,4436	10,8653	12,6698	6,4120	18,4149	9,1397	12,5753	13,2270	23,1173	19,9372	33,4573
標準偏差	1,3036	2,6991	1,8923	2,0636	1,9682	2,8990	2,5992	2,8798	3,0554	3,0287	6,3326
度数	657	657	656	656	657	657	657	656	657	656	653
平均値	7,8073	10,5789	12,4909	6,1866	18,2846	8,7108	12,7717	13,0976	22,8813	19,6265	33,8760
標準偏差	1,1949	2,8230	1,7977	2,0249	1,9661	2,8561	2,4105	3,0366	3,2895	3,0370	6,4092
度数	408	408	408	408	408	406	408	408	408	408	408
平均値	7,6373	9,8805	12,3854	6,4939	18,3407	8,4778	12,6029	12,5931	22,5956	19,6201	33,0931
標準偏差	1,2713	3,0937	1,7293	1,8863	1,9763	2,9603	2,4493	3,0332	3,3707	3,2520	6,9304
度数	218	218	218	218	218	218	218	218	218	218	218
平均値	7,9404	10,9078	12,7294	6,3446	18,4564	8,9807	12,7211	12,1218	23,8862	19,8826	32,218
標準偏差	1,1723	2,8708	1,6670	2,1884	1,8740	2,9492	2,4711	2,8157	3,3862	3,2326	7,2393
度数	168	168	168	168	168	167	168	167	167	168	166
平均値	8,1667	10,8274	12,6429	5,9405	18,3512	8,5150	12,6726	12,8862	22,8144	19,9821	31,3012
標準偏差	1,2365	2,9262	1,6715	2,2286	1,9703	2,9836	2,5385	3,5388	3,7071	3,3228	8,0147
度数	4954	4954	4954	4954	4955	4952	4954	4952	4951	4954	4946
平均値	7,5779	10,5412	12,7473	6,4500	18,3534	9,3207	12,6584	13,2044	22,8677	19,6387	33,8178
標準偏差	1,3214	2,8823	1,8057	2,1140	2,1034	3,0645	2,5616	2,9715	3,2892	3,3872	6,7947

【附表8】地域別に標準化した所得階級別でみた各スケールの基本統計

各年代の階級別の人口	生活満足度	政治関心度	精神面での力に対する自信	強者層についての自信	法の主観的不可侵性の評価	法の遵守への期待	法を遵守する意向	法を遵守する意向	法に守る意向	過去年度	国家機関に対する信頼	法的紛争解決行動に対する意向
低所得層(地域)	139	1024	1024	1024	1034	1004	1003	1023	131114	1031	19620	673
平均値	71816	103916	103916	103916	103916	103916	103916	103916	131114	231754	19620	350941
標準偏差	15088	31657	31657	31657	31657	31657	31657	31657	31657	33388	35282	63106
中等所得層(地域)	805	805	805	805	805	805	805	805	805	805	805	803
平均値	75093	105865	105865	105865	105865	105865	105865	105865	105865	227453	194085	342279
標準偏差	13889	27208	27208	27208	27208	27208	27208	27208	27208	33917	37437	70491
中高所得層(地域)	1140	1140	1140	1140	1140	1140	1140	1140	1140	1140	1140	1141
平均値	75880	103243	103243	103243	103243	103243	103243	103243	103243	226336	193900	333883
標準偏差	12624	28528	28528	28528	28528	28528	28528	28528	28528	32750	34075	54535
高所得層(地域)	7505	107198	107198	107198	107198	107198	107198	107198	107198	229469	198918	334315
平均値	77505	107198	107198	107198	107198	107198	107198	107198	107198	229469	198918	334315
標準偏差	11314	28010	28010	28010	28010	28010	28010	28010	28010	31884	30989	59813
合計	4850	4850	4850	4850	4850	4850	4850	4850	4850	4847	4850	4842
平均値	75778	105412	105412	105412	105412	105412	105412	105412	105412	228702	196400	338163
標準偏差	13913	28830	28830	28830	28830	28830	28830	28830	28830	32846	33674	57955

【附表9】家庭の経済状況別でみた各スケールの基本統計

各年代の階級別の人口	生活満足度	政治関心度	精神面での力に対する自信	強者層についての自信	法の主観的不可侵性の評価	法の遵守への期待	法を遵守する意向	法を遵守する意向	法に守る意向	過去年度	国家機関に対する信頼	法的紛争解決行動に対する意向
低所得層	85971	112014	127626	67050	183813	91367	120935	139281	227266	196043	328993	673
平均値	12082	30767	17520	20053	21175	31810	31042	29480	31510	33459	78355	638
標準偏差	82722	109645	129201	68669	186864	93077	130059	134481	233894	200503	337062	337
中等	3940	29784	17147	21002	16447	31838	28986	31289	29712	28082	67933	673
平均値	7282	10284	12392	6399	18393	93046	12600	131865	224576	194040	338863	2890
標準偏差	3940	29784	17147	21002	16447	31838	28986	31289	29712	28082	67933	673
やや上	10485	21604	10668	10852	10668	10657	10668	10668	10668	10668	10668	10668
平均値	69663	101929	125334	68957	181707	90918	125581	130037	227957	191948	339380	673
標準偏差	13570	29249	18451	20825	21842	29108	25517	29738	32859	32059	64533	673
中等	421	421	421	421	421	421	421	421	421	421	421	419
平均値	63468	102061	126465	68026	183135	100903	126381	133385	227613	188738	348282	419
標準偏差	17844	33397	17510	21838	22702	33872	27055	26585	30850	35116	64185	419
やや下	73785	105427	127473	64492	183541	93210	126663	132044	226694	194010	338224	419
平均値	13911	43822	21143	21028	30633	23512	29708	32661	33876	33876	67958	419
標準偏差	13911	43822	21143	21028	30633	23512	29708	32661	33876	33876	67958	419

〈40〉 中国法意識スケーリング (2・完)

【附表10】居住場所でみた各スケールの基本統計

あなたの居住地	生活満足度	政治関心度	構成員での力 に対する態度	選挙権につ いての態度	法の規範的 可及性の評価	法の遵守 の傾向	法に對する 社会的 責任	法に對する 投票率	選挙権に 對する態度	選挙権に 對する投票率	法に對する 投票率	選挙権に 對する投票率
農村	1831	1831	1830	1830	1831	1830	1831	1831	1831	1831	1831	1831
平均値	7.6689	10.3058	12.8077	6.6620	18.2640	9.9230	12.5806	13.5330	22.8252	19.7638	34.7397	34.7397
標準偏差	1.1506	2.2858	1.9079	2.1281	2.2835	3.1198	2.6812	2.8918	3.2683	3.6481	6.7981	6.7981
都市	3128	3130	3129	3131	3129	3127	3128	3126	3125	3130	3130	3122
平均値	7.3128	10.3128	12.5346	6.3136	18.3847	8.9983	12.7004	13.0134	22.8950	18.5896	33.2819	33.2819
標準偏差	1.3833	2.8110	1.2366	2.3229	2.2835	2.7229	2.4872	3.0003	3.2893	3.2337	6.7355	6.7355
合計	4959	4961	4958	4961	4960	4957	4959	4957	4959	4959	4959	4959
平均値	7.5785	10.5422	12.7467	6.4695	18.3208	9.3208	12.8562	13.2657	22.8626	18.6743	33.5204	33.5204
標準偏差	1.3209	2.8821	1.8057	2.1142	2.1029	3.0631	2.5609	2.9710	3.2688	3.3211	6.7350	6.7350